

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

私は札幌生まれ札幌育ちで幼少期は、勉強をする習慣がなく読書も全くしない子供で、親には諦められていたようです。そのため、基礎がすっぽり抜けており、今になって基礎勉強の毎日です。勉強のきっかけは、やはり技術士の取得を目指したことから始まりました。

まず最初に『技術士補』の壁が私の前に立ちました。最初は、さほど危機感もなくただ会場へ行きマークシートを塗りつぶす年が続き、30 歳になり「そろそろ気合を入れて。。。」と思いがけ空回りし気合が入らない状態が続きました。平成 20 年(あつという間の入社 10 年目)には、技術士補保持者の社員(2 歳年下の女性中途社員)が入社してきたので「こりやまずい」と一意奮闘し何とか合格したのを記憶しています。技術士補取得に要した年数なんと 10 年。。。

次に技術士。出来の悪い私は 5 ヶ年計画で取得を目指しました。これまた最初の 2 年間は、ほぼ無勉強で受験。3 年目からは本格的に勉強を始め、先輩技術士のもと幾つかの論文を作成するも赤ペンだらけで撃沈。勿論、試験も撃沈。それでも、何度か添削を受けているうちに赤ペンで埋められる面積が少なくなり、なんとか目標の 5 年で合格することが出来ました。合格できたのは、家族の協力と諸先輩や会社の支援のおかげだと思っています。この場をお借りし心からお礼申し上げます。

私が勤務している会社は、河川専門のコンサルタントで入社 5 年間は河川計画、その後は河川構造物の設計に携わっております。趣味も川釣り、名前も川原。川には何か縁がありそうです。今後も人にやさしく災害に強い川づくりを目指し困知勉行を目標に日々研鑽してまいります。

川原 友和 (かわはら ともかず)

●建設部門

勤務先

株式会社 リブテック



→次号は、塚本哲也さん(建設部門)

コンサルタント業に就いて初めての仕事が大規模開削工事に伴う周辺地下水環境の変動予測に関する業務でした。数値シミュレーションによる地下水変動予測とその定量的評価を、出始めたばかりの PC98 マシンを用いて行いましたが、1980 年代当時としては大変めずらしい取り組みでした。今日では信頼性の高い汎用ソフトを用い、見ちがえるほど高性能になったノート PC とネット

環境を駆使して、いつでもどこでも手軽に計算と結果の図示ができるまでになりました。建設工事と地下水問題の検討手法は PC を始めとする IT 技術導入によって飛躍的に進みましたが、現場実績の積み重ね、つまり技術者の豊富な経験と知恵が最も重要であることは言うに及びません。

大学に移ってからは積雪寒冷地の水問題、特に雪解け水の量と質、そしてその行方を追う仕事を中心になりました。地中水の挙動には分かっていそうで分からない問題も多く、それを理解するための 1 ステップとして積雪内部の水の動きを追っています。実にマイナーな仕事だと思いますが、毎年のように繰り返す融雪洪水や融雪地すべりの原因究明や防止対策のためには欠かすことが出来ないとの自負もあります。同時に、現象を今までと違った視点から見ることも大切で、そんな時には小学生の頃好きだった科学番組「四つの目」を思い出しつつ、異なる時空間スケールを思い描くようにしています。最近では、ドローン(UAV)に大きな期待を寄せています。限られた時間内に特定の範囲を鳥の目の高さから観察できるという強みは、雪崩・斜面崩壊・地すべり等の現場での迅速な範囲特定や体積推定に威力を発揮します。農場や森林の管理など他の分野でもドローンの利用が急速に伸びています。

石井 吉之 (いしい よしゆき)

●応用理学部門(地球物理及び地球化学)

勤務先

北海道大学低温科学研究所
水・物質循環部門



→次号は、阿部正明さん(建設/総合技術監理部門)